

Citation: Lancaster T, Fowler G. Training health professionals in smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2000, Issue 3. Art. No.: CD000214. DOI: 10.1002/14651858.CD000214.

CRG名: Tobacco Addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 May 2000

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 4, Updated

背景: 医療専門職からの短い介入が禁煙率を上昇させることができるという良いエビデンスがある。いくつかの試験は、医療専門職のための特殊な技術トレーニングにより、たばこを吸う患者の(禁煙)支援においてより大きな成功につながるかどうか調べている。

目的: このレビューの目的は、医療専門職がその患者に禁煙介入を提供するようトレーニングすることの有効性を評価することと、医療専門職が介入するよう促したり、思い出させたりすることの付加的な効果の評価をすることである。

検索戦略: Cochrane Tobacco Addiction Group trials registerからトレーニングに関する研究を検索した。

選択基準: 医療専門職の禁煙におけるトレーニングが介入であるランダム化試験。介入後少なくとも6か月後の患者の喫煙率をアウトカムとして報告したかどうかを検討した。プロセス・アウトカムに関しても取り上げるが、喫煙行動ではなくプロセス・アウトカムだけへの効果を報告した試験は除外した。

データ収集と分析: 医療専門職のタイプ、トレーニングの性質と期間、アウトカム指標、ランダム化の方法、追跡の完全性に関して、2人で重複してデータを抽出した。主なアウトカム指標は次のようなものとした。1.ベースラインで喫煙していた患者の少なくとも6か月後の禁煙率2.カウンセリングの提供、禁煙開始日の決定、追跡の予約の取り決め、自助資材の配布、ニコチンガムの推奨を含む医療専門職による禁煙の作業課題の遂行率。

主な結果: トレーニングを受けた医療専門職は、トレーニングを受けなかったコントロールより、禁煙の作業課題を遂行しているようであった。トレーニングを受けた専門職とコントロールの間で患者の喫煙行動を比較した8つの研究のうち、6つでは介入の効果が認められなかった。プロセス・アウトカムへのトレーニングの効果は、介入や思い出しを促すことで増加した。

レビューアの結論: 医療専門職に禁煙の介入を提供するよう、トレーニングすることには、専門職としての作業課題の遂行をある程度引き出す効果が見られた。それが喫煙行動を変えたという強固なエビデンスはなかった。

(翻訳 大森みさき・監訳 大島 明; JCOHR)
翻訳公開日: 10年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。